

「姉と弟」

(第四十九回)

「新美空ひばり物語―不死鳥ふたたび」公演が、新宿であった。今回は母と子、姉と弟の愛情をテーマとした構成。お嬢そっくりの浅茅陽子さんや、親友の雪村いづみさんから感動をもらった。

ひばりさんが子供の頃、バス事故で奇跡的に助かり、「日本一の歌手になれませうように」と願をかけたのが、高知県大豊町にある日本一の大杉だ。「夫婦杉」の愛称で親しまれ、高さ60m、根元の周囲20m、推定3000年とされる木である。

この巨木を植えたのが、須佐之男命であるという。以前に観た演劇「日本武尊伝説」や日本書紀から、若干ポイントをまとめてみよう。

イザナギが左の目を洗うとアマテラスオホカミカミ天照大神が、鼻を洗うとスサ

健康のススメ

板東 浩

ノオが生まれ、姉弟の関係に。姉が天上を、弟が地上を治めるように命じられた。弟の暴挙に姉が怒り、姉は天の岩屋戸に閉じこもり。世界は暗闇になったが、歌と踊りで興味をひかせ、どうにか解決できた。これは、

日照時間が減ると、生命が衰弱し作物の収穫が落ちることを意味し、姉は太陽や豊穰ほうじょうの女神ともいえる。

弟は、抜いたひげが杉の木になるなど、日本国中に木々を茂らせた「木の神」だった。森の中には、植物と動物の命の循環がある。農耕が進むと森は破壊されてしまう。この様子を弟が懸念し、姉に抵抗したのかもしれない。

5月21日は、720年に日本書紀が完成した日。もし、あなたがこの姉と弟だったら、どのような国作りや命作りをしたと思いますか？

(医学博士・内科医師)